

タイ王国とタイ語

タイは東南アジア、インドシナ半島の中央部にある王国である。タイ人の大半はタイ語を母語としており、上座仏教を信仰しているが、北部や東北部には少数民族がおり、マレー半島南部のマレーシアとの国境付近にはマレー系イスラム教徒がいるなど、多民族からなる国である。

タイを旅行する日本人に比べて、以前は日本を観光するタイ人は少なかったのだが、最近ではタイだけでなく東南アジア各国からの日本への観光客が激増している。タイ語で書かれた個人旅行者用のガイドブックが何種類も発売され、そこには東京近郊だけでなく、日本各地の観光地の情報も掲載されている。タイ人旅行者と私達が日本各地で出会い、英語で話す機会も増えてきている。

そこでタイ語の基礎を少し学んでみて、タイ人に話しかけてみてはどうだろうか。学んだ外国語が通じたときの喜びは格別である。初級の学習者の立場を味わうことも、初心にかえる意味で新鮮な経験かもしれない。

まず、タイ語の概要を見ておこう。あるタイ語コーパスの頻出語上位 200 語を見ると、その 90%以上が 1 音節語である。このように単音節を基調とする点は英語と共通している。発音面では、同じ子音と母音からなる音節であっても、声の高低の違いにより単語の意味が異なる「声調言語」である。この点では中国語に近い。

文法面では、単語が活用形を持たない、いわゆる「孤立語」である。英語はインド・ヨーロッパ諸言語の中では「孤立的」と言われるが、名詞の単数・複数形、代名詞の格変化、動詞の過去形、分詞形などに変化形が残存している。一方、タイ語にはこういった形態変化が一切ない。

基本語順は、主語＋述語（＋目的語）で、名詞と述語動詞との関係を表すため、前置詞を使うことがある。名詞を修飾する形容詞・名詞を、一貫して名詞の後に置く点を除けば、タイ語は英語とよく似ている。形容詞は名詞の前に、関係節は名詞の後に置く英語の方がむしろ例外的と言えよう。

このような言語類型論的、あるいは対照言語学的な観点は、少なくとも外国語の初歩の学習段階では役に立つと思われる。例えば日本語と韓国語の場合のように、一般に発音、文法、語彙の面で母語と共通性の高い外国語は学びやすい。一方、今回挙げたタイ語の特徴だけを見ると、どれも日本語とは大きく異なっている。それではタイ語は日本人にとって学びにくいかというと、一概にそうともいえないようである。

次回から、タイ語の特徴を学びながら、それが英語や日本語とどう似ており、あるいは異なるのかを比べていく。対照言語学的な知識がタイ語の初歩を学ぶ際に役に立つかどうか、実際に試してみよう。

表紙写真 について

コペンハーゲンと自転車

編集部

デンマークの首都・コペンハーゲンを歩くと、道がほぼ平坦であることに気づく。その象徴的な光景が、写真のような自転車通勤者の多さで、実に通勤者の 35%が自転車を利用しているという統計もある。自転車を走らせ通勤する人々は整然と、それでいてどこか楽しげで、東京の朝の通勤ラッシュに比べると遥かにストレスフリーに思えて、このコペンハーゲンの「チャリ通」がとても羨ましく思えた。

コペンハーゲンでは自転車通勤を促進する数々の施策を行っており、

ざっと思い浮かべるだけでも以下の 3 つある。

[1. 専用レーンの整備] 場所によっては、レーンに沿って緑のランプが点滅する。このランプが点滅しているスピードに速度を合わせて自転車を漕いでいくと、交差点で赤信号に捕まらない仕掛けになっている。

[2. ゴミ箱] 自転車を走らせながらゴミを捨てられるように、専用レーンに向かって口を開けているゴミ箱を道路の至るところに設置している。

[3. 電車への持ち込み] S トーという近郊電車への自転車の持ち込みが

無料で、自転車を固定するストッパーが完備された持ち込み用の車両もある。無料化したことで鉄道の利用者が倍増したというデータもある。

周知の通り、北欧に位置するデンマークは世界屈指の高福祉国家であり、高い税率と高い物価の代わりに医療費は原則無料である。そのため、自転車通勤をこれらの施策で奨励し、市民の健康を増進させ、ひいては医療費の低減を図る、という好循環を狙っているという。彼らが「幸福な国ランキング」で毎回上位にいるのも頷ける話である。

